

愛知県一宮町の大樹さん

特別住民番号1331

我が家は、30程前から植木販売業を営んでおります。私が主人と結婚したのが、丁度20年前。すぐに子宝に恵まれ(長男)、名前を何とつけようかと夫婦で考えた結果、主人の名前が晃、主人の父の名前が肇一、私の父の名前が堅一なので主人と二人の父の名前を一文字づつもらい晃一と名付けました。長男を出産してから2年後、次男を出産、この時も名前をどうしようかと悩みました。大きくはありませんが植木生産販売業を営んでいるので、それに因んだ名前をつけてもいいんじゃないかという事になり、自然を愛し大地に根をおろし心の広い相手を思いやれる人になってほしいと大樹(ひろき)と名付けました。出産して一週間ぐらい病院に居る時はよく乳を飲み、よく眠る本当に模範的な赤ちゃんだったのに退院して家に帰ってきた途端、眠りが浅くなり私も睡眠不足の日々が続きました。



又、生後6ヶ月頃になっても音に反応せず耳が不自由なのではないかと心配になり名古屋の保健センターまで何度も足を運びました。その甲斐あって少しづつ音に反応する様になり夫婦ともども感謝の気持ちで一杯になった事を憶えています。その後2年おきに2人の妹(みどり、明美)が生まれ、大樹は4人兄弟の2番目という親の愛情を十分受ける事ができなかった割には、頼もしい息子に育ってくれました。良い親では決してありませんが4人の子供達それぞれがそれぞれの目標を持ち、自分自身を失わず、その目標に向かい頑張っている姿は、本当に素晴らしい事だと思います。今の気持ちを大切に大きな人間になってくれる事を願っています。

最後にご縁があり大樹町の特別住民にして頂いた事に深く感謝申し上げます。(父母)

神奈川県横浜市の大樹さん

特別住民番号1338

我が家の次男は“大樹”という元気な男子です。長女・長男に遅れて15年ぶりの子育てに毎日フーフー言いながらも楽しませてもらっています。予定日より1ヶ月半も早く産まれてしまって未熟児でしたので、大きくしっかり地面に根づいた強い子に育てて欲しい思いを込めて“大樹”と名付けました。(父)



北海道室蘭市の大樹さん

特別住民番号1348

私は中学時代、地理が好きだった。休み時間になると地図帳を見てしりとりにして楽しんでいました。私はとても負けず嫌いで、目を皿のようにして地図を見つめていた。そのときふと目に入ったのは“大樹”という町名だった。おお、俺の名前があるぞ！



この“大樹”という名前…小学生のときには漢字で書くのがとても大変で、あまり好きではなかった。特に“樹”。これには、まいていた。いくらカッコ良くそろえて書こうと思っても、全くそろわない。いつも豪快に名前の欄からはみ出すわけである。どうして大人はあんなにきれいに書けるのだろう。自分が書くと、どうしても“樹”だけが大きくなってしまふ。なんで…。

そんなひよんなことから、自分の名前に関心を持ち始めたのであるが、実は未だに自分の名前の由来を知らない。きっと読んで字のごとくなのだろう。“寄らば大樹の陰”のように大きな人間になってほしいとの親の願いが込められているのであろう。そんな

心を知らず、負けず嫌いでカリカリした思春期を過ごした私は、少し偏屈な人間になってしまっていた。そんな自分を省み、広い心を思い起こすため、そして親の私への思いを思い出すために、時折、何度も自分の名前を書いていた。“大樹、大樹…”今では、随分とうまくなった。格好も良くなった。しかし自分の内面は、字のように成長しているのだろうか。外見だけを気にしているのではなからうか。自分のうまくなったがごちんまりした字を見て、時々思っていた。

最近、思いがけず大樹町に行く機会があった。ゆったりとした、大きな町。これはスペースシャトルも夢じゃないな。なんて思ったりして、ふと思い出した。自分の内面にはこの余裕がなかったのではあるまいか。

それ以来、“樹”には少し余裕をもたせて、大きめに書くようにしている。自分の心にも余裕がもてるように、あの広い大樹町のゆったりとした景色のような心になるように。

東京都日野市の大樹さん

特別住民番号1352

平成9年4月8日、午後4時26分、私たちの待望の赤ちゃん、大樹はうぶ声を元気にあげました。性別を産婦人科の先生から教えてもらわずに、産まれてからの楽しみにしていた私たちは、男の子と女の子の名前を一つずつ決めていました。それで、看護婦さんから大きな声で、「男の子ですよ。」と言われた瞬間から“大樹”と名前が決まりました。



“大樹”という名前は呼び方がいろいろありますが、お腹の中にいるときから、私たちは赤ちゃんのことを、胎児の“たいちゃん”と呼びかけていて、この響きに愛着があったので、そのまま呼べるよう“たいき”と決めました。

我が家の大樹はその名のとおりに、身も心も、どっしりとした子に育っています。赤ちゃんの頃は、よくおっぱいを飲み、よく食べ、身体のどっしりとした子でした。2歳になった今では身体はもちろん、人見知りもせず、多少のことでは泣かず、いつでもどっしりとかまえています。

私たちはそんな大樹が大好きです。

肝心の“大樹”という名の由来ですが、実はお父さんが赤ちゃんができたときから決めていたそうですが、なぜ“大樹”という名に決めたのか、未だに明らかにしてくれません。

いずれ、大樹が20歳になったら、お酒でも飲み交わしながら、ゆっくり話してくれると信じています。そのときはお母さんにもこっそり教えてくれると、楽しみにしています。

東京都府中市の大樹さん

特別住民番号1354

ぼくの名前は、ぼくがまだおかあさんのおなかにいるときに、おじいちゃん、おばあちゃん達みんなでも考えてくれたそうです。そして、おじいちゃんが、大樹と名前をつけてくれました。



おじいちゃんは、ブナの原生林で有名な白神山地がある青森県西目屋村で生まれました。白神山地のブナの原生林は、世界遺産に指定された貴重な自然です。その雄大な自然に囲まれた環境の中で育ったおじいちゃんは自然の少ない都会に生まれてくるぼくに、都会でもブナ等の樹木のように雄大に育ってほしいと願いを込めてくれたそうです。

名前を考えていたみんなも、水上大樹＝樹木に水をあげて大きく育てるというように語呂がいいとか、ミズガミダイキの音の響きがいいとあって、大樹という名前に賛成したそうです。

平成10年2月16日に、ぼくは産声をあげました。生まれたときの体重は3,845グラムでした。おかあさんは、ちょっと大きめに生まれてきたぼくを見たとき、大樹という名前がぴったりだと思ったそうです。

ぼくは、みんなの願いが込められていて、体を表している大樹という名前が、お気に

入りです。

北海道中札内村の大樹さん

特別住民番号1358

大ちゃんの名前が決まったのは、大ちゃんを抱いたお母さんのひらめきでした。おなかの中に居た時には、ちがう名前だったんだよ。

大ちゃんが生まれる時、大ちゃんとお母さんは、とても大変な思いをしました。そんな中、小さな体で、大きな声で、大ちゃんは生まれてきたね。その後もまた、色んな事があって、やっと大ちゃんに会える事ができました。お母さんは、小さな大ちゃんを抱いて、大きくなってほしい、と思い、樹の字が好きだったので、大きな樹で、大樹と名付けました。



あとね、偶然だけど、兄弟3人でとても素敵な意味になるんだよ。

これは、お父さんとお母さんの願いでもあります。

長男弘樹、二男瑞樹、三男大樹

広い大地(心)に樹を植え、きれいな水(心)で樹を育て、たくましく、みんなに安らぎを与えられる様な、大きな樹(心)になって下さい。(父母)

埼玉県浦和市の大樹さん

特別住民番号1359

息子の命名については、主人と義父と三人で考えました。

まず、私が茂樹にしたいと言いますと、義父が我が家においての茂という字は余り良くないとOKを出してくれませんでした。

仕方なく諦めて、男の子なので「樹」という字は使いたいとの私の主張に主人曰く「大樹將軍」という言葉もある、という事で「ダイジュ」にするかと言いました。



字は気に入ったのですが、名前倒れて小さな人物になっても困るし、と心配にもならない心配をしてみました所、大という字はヒロシとも読むので、ヒロキにしたらどうかと言う事で、大樹と書いてヒロキと読む様にした訳です。

現在、本人は今年30歳になります。可愛いお嫁さんと楽しい日々を過ごしています。休みの日はサッカーや野球をして真黒になり、健康にも恵まれ、大きな樹になってくれたと思います。

周りの人の評判もなかなか良くて「いい名前ね」と言ってくれます。

大樹町の件は主人が新聞の切り抜きを持って来て応募をした次第で、この名前を付けたお蔭で大樹町ともご縁が出来、大変光栄と思い、これからどういう風に広がって行くのかなあと期待と楽しみをしております。(母より)

北海道札幌市の大樹さん

特別住民番号1369

わが家の息子大樹は、親の“大きな樹木のようにのびのびとした、沢山の人が寄りそいたくなるような人物に育つように”という願いをこめて名付けられました。今のところ百一倍やんちゃな野生児として育てています。北海道内に同名の大樹町があることは知っていましたが、まだ一度も訪れたことはナインデス。他の大樹さん達はどんな方たちなんでしょうか？ お会いできると嬉しいです。それでは…。よろしく願い致します。(父)



東京都中野区の大樹さん

特別住民番号1380

生まれた時は2,824gの小さな男の子で、大きく育てほしいと願いをこめて、パパが大樹と命名しました。1986年の春でした。家族一同異存はなく、良い名前だとよこびました。



3歳位の時、私が地図を見ていた時、北海道に大樹町があるのを見つけました。それから大騒ぎになりまして、“それでは一度行かなくちゃ”と四歳の夏、家族一同(大樹の祖母二人も含めて)ではるばる行きました。

観光を兼ねて札幌—富良野—大樹町と行きましたが、見渡す限りの広い大地に防風林があちこちにあって、のどかで牛がいて、良いな〜と。道の端に道路端(たしかそんなかんじの)の矢印が立っていて、?と思いましたが、冬のためのもの、と聞いて、あっ冬は雪がいっぱい積るんだなあと一面の雪景色を思い浮かべました。でも住んでる方は大変だなあ〜と。

いよいよ大樹町に着きました。役場に小学校に郵便局、全部に大樹がついていて大感激。記念に郵便局で通帳を作ろうと思いましたがハンコを持ってなくて困っていると、郵便局の方が「川の向こうに文房具屋があるから」と教えて下さいました。大きくてキレイな川があって、その先のお店で何とか間にあわせて念願の通帳が出来ました。今でも毎年記帳しております。その時の4歳のイタズラっ子も13歳になり、今年春、中学生になりました。特別住民にして頂き、今日又、寄稿の御知らせがあり、大変嬉しく存じます。

今後ますます大樹町が発展なさいますよう、御祈り致します。

又、いつか行けたら良いな〜とっております。(母)

北海道函館市の大樹さん

特別住民番号1390

僕は5歳迄は、栗山大樹という名前でした。栗の山に栗の木の大木が大空に大きくのびて心の広い元気でりっぱな子に育つようにとの両親の願いをこめてつけたそうです。しかし残念なことに両親の離婚により、今の名前(姓)になったのです。齊藤と大樹とは何のつながりもなく大変残念です。僕は今調理師になることを夢みて、札幌の調理師専門学校でがんばっています。母がパートで一生懸命働き、送金してくれています。そんな母のため、早くりっぱな調理師になりたいです。



卒業したら一度は、大樹町を訪れたいと思っています。